四つの守護神社

寺院の水にまつわる象徴は、寺院の敷地の 4 つの主要なポイントにある守護神の 1 つである龍神によっても表されます。日本の神話では、龍は海の守護神であり、神道信仰の一部では水神として龍神と呼ばれ、農業の雨や航海の幸運を呼び起こすために儀式が行われています。鑑真が中国から日本まで海を横断していたとき、寺院の東を守っている龍神は、鑑真が持っていた仏の舎利の守神となるように僧侶に請願したという伝説があります。

南大門、ヒンズー教の神サラスワティに由来する弁財天もしくは弁天を祀る社があります。何世紀にもわたって、弁天の役割は、能弁の女神から金運の女神へと変わりました。人々の守神としても知られています。

寺院の北部には、鬼子母神に捧げられた別の社があります。これは、拉致された子どもたちの肉を自分の子に食べさせることで知られる神話上の女神であり悪魔です。仏は彼女に自分のやり方の誤りを見せようと決心し、鬼子母神の末の息子を茶碗に隠しました。この喪失で苦しんだ後、彼女は他の母親に生じた痛みを理解し、子どもと妊婦の保護者になることを誓いました。